



International Cartographic Association
Association Cartographique Internationale

地図・地理情報が地球の現実と人をつなぐ - ICA(国際地図学協会)の現況と挑戦 -

日本学術会議 地球惑星科学委員会 IGU分科会 ICA小委員会

伊藤香織

(東京理科大学)

地図学と地理情報科学に関する 国際的な学術・専門組織

目的： 地図学および地理情報科学の学問・専門領域を国際的に振興し代表することによって、地図学および地理情報科学が社会と科学の利益のために最大限の効力と可能性を発揮できるようにする。

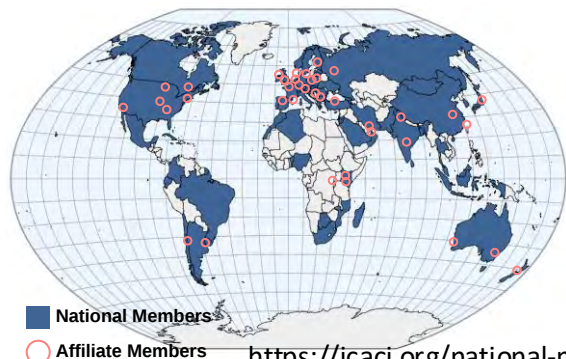
沿革：

1959 スイス・ベルンで設立
1961 第1回総会 於パリ，規約承認
原則として4年に1回の総会，
2年に1回の国際地図学会議を
世界各地で開催
2014 ICSU正式メンバー
2018 ISCに引き継がれ，ユニオン・アソシ
エーション・メンバー

主な活動：

総会（4年に1回）
国際地図学会議（2年に1回，研究発表・巡検・国際
地図展・国際子ども地図展など）
28の研究委員会と3の作業部会
出版（International Journal of Cartography,
Advances in Cartography and GIScience of
the International Cartographic Association など）
表彰

加盟： 74の国や地域， 38の組織



メンバーシップ：



International
Science Council



International Science Council
GEOUNIONS



姉妹組織：



GSDI
Global Spatial Data
Infrastructure Association



近年の学術の進展

ICA会長ゲオルグ・ガートナーの論考より

技術進歩，データの民主化，社会需要の発展によって，地図の作成，共有，理解の方法が再定義され，地図学・地理情報科学が現代の課題に取り組む妥当性が強まっている．過去十年間の主な動き：

1. データソースとオープンデータ・ムーブメント

透明性と協働が促進され，集合知的な知識創造への転換を体現．クラウドソーシングのオープン性と公式データの厳密さのバランス．データの民主化によって，地域のニーズと視点をより反映する包摂的な地図へ．

2. 主題図とデータ・ビジュアライゼーション

多様なデータ可視化手法が利用できるようになり，主題図作成は著しく増加．

3. インタラクティブ性とユーザ・エンゲージメント

インタラクティブ・マッピング・プラットフォームの台頭や様々なメディアとの統合で，ユーザがより有意義に情報に関わるように．

4. 認知地図学

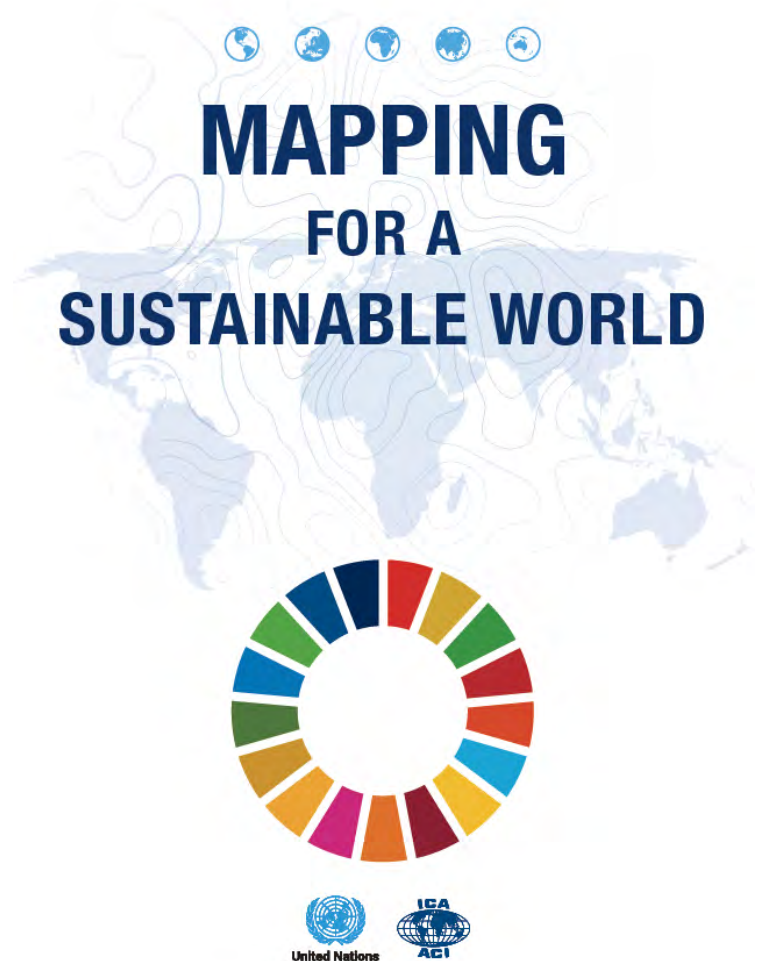
認知地図学によるユーザビリティの向上，ARやVRによる空間記憶の向上など．空間データのより明確で公平な解釈のために，ユーザ中心で認知バイアスを考慮した設計原則を適用．

5. 倫理的配慮

データの表現と正確性に関する倫理的な課題．デジタルデバイドの課題．

現代社会に不可欠な マッピング・リテラシーの向上を通して SDGsの達成に貢献

- 地図は現実と人間とのインターフェイスであり、理解をまとめ、意思決定をサポートし、人間の行動、思考、計画、空間理解の能力を拡張する。
- ICTの普及により人々が地図表現に触れる機会が飛躍的に増え、また空間的思考の重要性の高まりも伴い、地図は現代のコミュニケーションの重要な方法となっている。COVID-19パンデミックに際しても、地図による情報整理が有用であることが示されている。
- UN-GGIMに参加し、SDGsの達成に貢献する。SDGs達成のためには、政府や人々が課題を理解し進捗を確認する必要があるが、SDGsに関連する地理的データセットの可視化は、有効な方法のひとつである。そのために、2020年に、国連と国際地図学協会との連名で"Mapping for a Sustainable World"を刊行した。
- 地図学および地理情報科学は、文・理・芸術を横断・融合する総合的な学問である。2年に1回開催される国際地図展、国際子ども地図展は、一般社会や子どもたちが、情報の視覚表現の可能性と楽しさに触れる機会となっている。



欧州の地図学コミュニティに加えて アジアの地図学コミュニティの活性化を推進

2015年から続くヨーロッパ地域の地図学会議EuroCartoに次いで、アジア地域の地図学会議AsiaCartoが2024年に始まった。地図学は従来欧米の中心性が強いが、今後アジア地域の連携が期待される。

EuroCarto2024

VIENNA, 9 - 11 SEPTEMBER 2024



<https://eurocarto2022.org>



Welcome to AsiaCarto 2024

The International Cartographic Association (ICA) and The Hong Kong Polytechnic University (PolyU) are pleased to initiate the first regional cartographic conferences (RCC) in Asia, namely **Asian Cartographic Conference (AsiaCarto 2024)**, that would help to expand and leverage the influence of the ICA in Asia and Pacific region.

AsiaCarto 2024 will be held during **8-10 December 2024** at **Hong Kong, China**. The theme is **Cartography and Geospatial AI**. It aims to bring together professionals and those working in related disciplines to offer a platform for discussion, exchange, and stimulation of research and joined projects on Cartography and GIScience. In the long run, AsiaCarto aims to evolve into a series of biannual conferences to be held in different Asian countries, consistently supporting the promotion of Cartography and GIScience, both within Asia and worldwide.

We are happy to welcome you to AsiaCarto 2024 in Hong Kong!

Call For Papers/Abstracts

Paper and abstract submission will start on **1 Feb 2024**, end on **1 Jul 2024**. The notifications of acceptance will be sent on **20 Jul 2024**.

Call for Sessions

Submission deadline: **1 Apr 2024**

Conference Registration

Registration starts: **1 Jun 2024**
Early bird registration: On or before **1 Sep 2024**

<https://asiacarto.org/2024/>
Every shortlisted case should

ICAへの日本の貢献

- 日本のICAへの加盟は1961年（第1回総会）
- これまで執行部役員として、副会長3名、名誉会員5名、コミッション委員長7名、表彰委員会委員3名を送り込む
- 国際地図学会議ICCを東京において2度開催（1980年、2019年）

第29回国際地図学会議東京大会（ICC2019）

- 75の国・地域から約1000人が参加
- テーマは“Mapping Everything for Everyone”，研究発表約650件、基調講演4件等
- 国際地図展（30カ国約400点）や国際子ども地図展（33カ国約200点）など一般公開
- 会期後に地図資料の国内巡回展

「持続可能な世界のための地図作成」刊行

国連とICAが共同出版した「Mapping for a Sustainable World」の日本語訳刊行。英語原著、フランス語に続く3言語目の刊行となる。

ユビキタスマッピング研究委員会

ICTを活用したコンテキスト・アウェア・マッピング技術やクラウドソース地理空間情報の理論と応用を評価する。

IGU-ICA合同地名研究委員会

委員会幹事。関連して、国連地名専門家グループで拡大事務局委員とWGコンビーナー。日本地理学会で地名問題検討委員会立ち上げ。

理論地図学分野のコミッションの展開

Year	ICA Commissions and Working Groups	Chair
1960-70	Working Group on Cartographic Information	A. Kolacny
1972-84	Commission on Communication in Cartography	L. Ratajski, C. Board
1984-87	Working Group on Concepts and Methodology in Cartography	U. Freitag
1987-91	Commission on Concepts in Cartography	T. Kanakubo
1987-91	Working Group on the Definition of Cartography	C. Board
1991-95	Working Group to Define the Main Theoretical Issues in Cartography	T. Kanakubo
1995-99	Commission on Theoretical Issues in Cartography	T. Kanakubo
1999-07	Commission on Theoretical Cartography	A. Wolodtschenko, Q. Du
2003-	Commission on Ubiquitous Mapping	T. Morita, M. Arikawa, Y. Wakabayashi, T. Ishikawa

